北イタリア安全対策情報（2026年7月～9月）

1　治安情勢

当地では、依然として窃盗事件が多発しており、多くの日本人が被害に遭っています。警戒心を維持し、貴重品は身体から離さず、適切な管理を徹底してください。

このたび公表された2025年の犯罪統計によると、イタリア全国の犯罪届出件数は約236万件で、前年比約1.8％減少しました。一方、ミラノ大都市圏では約22万8千件（同1.1％増）となり、人口10万人当たりの届出件数は全国最多となりました。ボローニャ県やトリノ県も全国上位に位置しており、北イタリアの主要都市では依然として犯罪が多い状況にあります。全国的には窃盗や強盗が減少した一方、詐欺やサイバー犯罪が増加しており、引き続き注意が必要です。

2　日本人被害（件数は当館に届け出のあったもののみを計上）

以下は、日本人が被害に遭った犯罪事例をまとめたものです。

（１）　スリ：12件（4月～6月：19件）

被害例：水上バス乗り場で乗船を待っていた際、チケット確認時にエラーが発生し、男女数名のグループから手助けを受けたところ、その隙にズボンに入れていた貴重品袋が盗まれていた（ベネチア）。

（２）　置き引き：12件（同：13件）

被害例：走行中の電車内で、パスポートの入ったリュックサックを荷物棚に置いていたところ、目を離した隙に盗まれた。（ジェノヴァ）。

（３）　車上ねらい：3件（同：3件）

被害例：車を運転中に信号待ちをしていたところ、オートバイに乗った男から「後輪がパンクし、煙が出ている」と指摘されたため、降車して確認していると、男がパンク修理用スプレーを貸してきたが、その隙に車内に置いていたバッグ等が盗まれていた（ミラノ）。

3　殺人・強盗・誘拐等の凶悪犯罪事例

以下は、凶悪犯罪被害の事例（日本人以外の被害者）です。

（１）　7月上旬の夕方、ミラノ市の地下鉄ドゥオーモ駅で、不法滞在中の20代のアルジェリア人の男が、20代の女性を殴り、刃物で顔を切りつけて逮捕された。男は犯行直前、「何を見ている。私は男であり、イスラム教徒だ」と叫んだとされる。

（２）　7月下旬の朝、ミラノ市コルソ・ローディ地区の中国総領事館で、米国行きビザ申請を却下されたことに不満を抱いたとみられる40代の中国人の男が、正門に可燃性の液体をまいて火をつけ、門の一部を損傷させ、身柄を確保された。

（３）　9月中旬の夜、ミラノ市南部グラトゾーリオ地区の集合住宅で、10代のモロッコ人男性が刃物で刺されて翌日死亡し、20代の同国人の男が逮捕された。同住宅では、7月中旬にも4人組が不法占拠中の部屋に押し入り、銃を発砲して男性が負傷したほか、9月上旬には男性が集団暴行を受け、約2日間監禁される事件が発生。また、7月上旬には地区内の路上で男性が胸部を刺される事件も発生していた。

4　テロ・爆発物事件発生状況

イタリア国内ではテロ事件の発生は確認されていないものの、イスラム過激派組織への参加や支持活動などに関する容疑で逮捕者が出ています。また、中東情勢の悪化を背景に、空港、駅、宗教施設、イスラエル・米軍関連施設などを中心に警備が続いています。引き続き、周囲の安全状況に十分ご留意ください。

【関連事案】

（1）7月中旬、パヴィア県在住の17歳イタリア人少女が、イスラム国（IS）を支持するオンライン上のグループに参加し、自爆攻撃の実行意思を示していたとして、国際テロ組織への参加容疑で逮捕。端末から自爆ベルトなどの爆発物製造に関する資料が発見された。

（2）8月上旬、コモ県在住の16歳のイタリア人少年が、SNS上でISを支持する宣伝活動を行い、ジハード主義やネオナチ、反ユダヤ主義に関連する内容を共有していたとして、国際テロ組織への参加や差別に基づく犯罪の扇動などの容疑で逮捕された。

（3）9月中旬、ミラノ市バンデ・ネーレ地区のバス停で、ユダヤ教の指導者が、3人組の男から帽子を奪われ、嘲笑や蹴るなどの暴行を受け、このうち1人が逮捕された。

【今後の主な宗教行事・国際イベント】

◇ ユダヤ教の主な記念日・祭日

● ハヌカー（光の祭り）：2026 年 12 月 4 日夕～12 日頃

5　対日感情の変化、日本企業の安全に関する諸問題

特段の問題は認められません。